

18歳意識調査

「第78回 -国や社会に対する意識（6カ国調査）-」
報告書

日本財団 2026年4月6日

目次

	内容	ページ
	調査概要	3
	自分の国の重要な課題	5
	自国の現在の競争力	6
	10年後の自国の競争力	7
	自国の現状	8
	自国のジェンダー意識・結婚・子育て観	12
	自分の国の将来	13
	自分自身	15
	自身と社会の関わり	16
	自分の生活についての満足度	18
	人生において大切にしたいと思っていること	19
	学校で勉強をする意味として重視してきたもの	20
	仕事を選ぶうえで重視するもの	21
	なりたい職業	22
	信頼している情報源	23
	生成AIの用途	24
	生成AIのメリット	25
	生成AIのリスク	26
	生成AIが活用されるべき分野	27
	生成AIによる学校や先生の役割変化	28

第78回18歳意識調査「国や社会に対する意識（6カ国調査）」

調査概要

本調査では、自国の状況、競争力や課題、自分自身、生成AIの使い方等について、6カ国の18歳前後の若者の意識を聴取した。2024年2月にも同調査を実施しており、前回と選択肢も含め同一の質問のみ、結果の時系列比較を実施した。*

※日本のみ2年前と同じアンケートパネルに対して調査を実施。前回（第62回）との時系列比較を行った設問があるが、日本以外はパネルの差異による影響の可能性もある。時系列比較を行った頁は、頁左上に「時系列」と明記。

エリア

日本・アメリカ・イギリス・中国・韓国・インド

調査対象

各国の17歳～19歳男女

回答数

各国1,000名

	17歳	18歳	19歳	計
男性	166	167	167	500
女性	166	167	167	500
計	332	334	334	1,000

実施期間

2026年2月4日（水）～2月24日（火）

調査手法

インターネット調査

注記1：回答者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

注記2：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

【参考】 前回（第62回） 調査の概要

今回（第78回）調査結果との比較を行った、前回（第62回）調査の実施概要は以下のとおり。

エリア

日本・アメリカ・イギリス・中国・韓国・インド

調査対象

各国の17歳～19歳男女

回答数

各国1,000名

	17歳	18歳	19歳	計
男性	166	167	167	500
女性	166	167	167	500
計	332	334	334	1,000

実施期間

2024年2月22日（木）～3月5日（火）

調査手法

インターネット調査

注記1：回答者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

注記2：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

自分の国の重要な課題

各国の上位5項目において、アメリカを除く5カ国で「経済成長」が挙げられたほか、日本、中国、韓国では「少子化」「高齢化」が、アメリカ、イギリス、インドでは「貧困」「テロ対策」が共通して重要な課題だと考えられている割合が高い。「移民の増加」「自然災害」が上位5項目に挙げられたのは日本のみとなった。

質問3：以下の社会課題のうち、現在の自国にとって重要なものはどれと考えますか。3つまで選択してください。
(複数回答3つまで)

日本 (n=1,000)		アメリカ (n=1,000)		イギリス (n=1,000)		中国 (n=1,000)		韓国 (n=1,000)		インド (n=1,000)							
1位	少子化	41.5%	1位	人種等による差別・偏見	36.8%	1位	貧困	36.6%	1位	高齢化	29.1%	1位	少子化	64.0%	1位	教育の質	40.9%
2位	高齢化	37.1%	2位	貧困	30.9%	2位	人種等による差別・偏見	32.5%	2位	教育の質	26.0%	2位	高齢化	51.6%	2位	貧困	33.7%
3位	経済成長	27.9%	3位	テロ・犯罪	24.0%	3位	テロ・犯罪	27.1%	3位	経済成長	20.0%	3位	経済成長	25.1%	3位	環境汚染	31.1%
4位	移民の増加	19.2%	4位	教育の質	22.4%	4位	経済成長	24.4%	4位	環境汚染	18.9%	4位	教育の質	23.9%	4位	経済成長	21.1%
5位	自然災害	16.3%	5位	気候変動・温暖化	21.3%	5位	気候変動・温暖化	24.0%	5位	少子化	18.0%	5位	気候変動・温暖化	17.8%	5位	テロ・犯罪	20.8%
6位	気候変動・温暖化	14.7%	6位	経済成長	20.7%	6位	移民の増加	21.1%	6位	貧困	16.5%	6位	環境汚染	15.7%	6位	人種等による差別・偏見	17.8%
7位	食糧問題（フードロス、安定確保）	13.1%	7位	食糧問題（フードロス、安定確保）	18.7%	7位	教育の質	20.2%	7位	気候変動・温暖化	15.1%	7位	ジェンダー格差	15.2%	7位	気候変動・温暖化	15.8%
8位	教育の質	12.2%	8位	環境汚染	15.5%	8位	環境汚染	15.3%	8位	孤独・コミュニティの希薄化	14.3%	8位	孤独・コミュニティの希薄化	13.0%	8位	ジェンダー格差	13.0%
9位	ジェンダー格差	11.9%	9位	移民の増加	14.5%	9位	食糧問題（フードロス、安定確保）	14.3%	9位	ジェンダー格差	13.9%	9位	テロ・犯罪	9.6%	9位	食糧問題（フードロス、安定確保）	11.2%
10位	貧困	11.3%	10位	孤独・コミュニティの希薄化	13.1%	10位	ジェンダー格差	12.8%	10位	テロ・犯罪	13.4%	10位	貧困	8.0%	10位	自然災害	8.3%
11位	環境汚染	9.6%	11位	ジェンダー格差	8.7%	11位	孤独・コミュニティの希薄化	12.3%	11位	自然災害	13.3%	11位	移民の増加	7.9%	11位	高齢化	5.9%
12位	資源の循環・枯渇	8.3%	12位	資源の循環・枯渇	8.0%	12位	高齢化	7.8%	12位	食糧問題（フードロス、安定確保）	12.3%	12位	人種等による差別・偏見	7.8%	12位	移民の増加	5.6%
13位	テロ・犯罪	7.7%	13位	自然災害	7.1%	13位	資源の循環・枯渇	7.7%	13位	資源の循環・枯渇	12.1%	13位	資源の循環・枯渇	5.7%	13位	資源の循環・枯渇	5.0%
14位	孤独・コミュニティの希薄化	6.8%	14位	少子化	5.8%	14位	自然災害	4.0%	14位	人種等による差別・偏見	10.0%	14位	自然災害	4.8%	14位	孤独・コミュニティの希薄化	4.8%
15位	人種等による差別・偏見	5.7%	15位	高齢化	4.3%	15位	少子化	3.9%	15位	移民の増加	9.2%	15位	食糧問題（フードロス、安定確保）	3.1%	15位	少子化	2.8%

自国の現在の競争力

日本では、「医学・科学技術」「スポーツ」「教育・文化」の順に、他国と比較して競争力が高いとの回答が多かった。「軍事・防衛」との回答は、日本以外の国では約70%を超えたが、日本は約40%と他国に比べて少なかった。

質問1：現在の自国の以下の項目の競争力について、他国と比較してどう思いますか。（単一回答、各国n=1,000）
 ※「高い」+「どちらかといえば高い」の回答率を、高い順に掲載

	日本 (%)		アメリカ (%)		イギリス (%)		中国 (%)		韓国 (%)		インド (%)	
医学・科学技術	73.1	軍事・防衛 74.2	医学・科学技術 76.6	軍事・防衛 77.8	医学・科学技術 86.8	軍事・防衛 83.3						
スポーツ	69.3	スポーツ 73.9	スポーツ 76.1	外交・グローバルリーダーシップ 77.3	教育・文化 77.5	医学・科学技術 71.4						
教育・文化	66.4	医学・科学技術 67.4	教育・文化 73.9	経済・GDP 75.9	軍事・防衛 75.0	スポーツ 70.8						
社会保障・福祉	57.9	教育・文化 56.9	軍事・防衛 69.9	スポーツ 74.2	経済・GDP 69.0	経済・GDP 67.3						
環境・エネルギー・気候対応	48.5	経済・GDP 56.8	社会保障・福祉 65.9	医学・科学技術 74.1	スポーツ 68.8	教育・文化 65.5						
経済・GDP	46.9	社会保障・福祉 54.6	経済・GDP 65.8	環境・エネルギー・気候対応 73.3	社会保障・福祉 65.7	外交・グローバルリーダーシップ 64.9						
外交・グローバルリーダーシップ	44.7	外交・グローバルリーダーシップ 53.3	環境・エネルギー・気候対応 62.0	教育・文化 72.5	外交・グローバルリーダーシップ 62.7	環境・エネルギー・気候対応 52.9						
軍事・防衛	40.5	環境・エネルギー・気候対応 45.8	外交・グローバルリーダーシップ 60.8	社会保障・福祉 69.5	環境・エネルギー・気候対応 54.0	社会保障・福祉 50.7						

10年後の自国の競争力

「現在の競争力が高い」と回答した割合（P6）と、「今後強くなる」と回答した割合を比較すると、インドでは全項目で「今後強くなる」の方が高かった一方、韓国では「環境・エネルギー・気候対応」を除く全項目で「今後強くなる」の方が低かった。日本では「軍事・防衛」「外交・グローバルリーダーシップ」で「今後強くなる」の回答割合が高かった。

質問7：10年後、以下の分野での自国の競争力は、他国と比べてどうなると思いますか。（単一回答、各国n=1,000）
 ※「強くなる」+「どちらかといえば強くなる」の回答率を、高い順に掲載

日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
医学・科学技術 69.5	軍事・防衛 75.3	医学・科学技術 77.8	軍事・防衛 79.3	医学・科学技術 82.0	軍事・防衛 88.4
スポーツ 67.7	医学・科学技術 72.6	スポーツ 76.8	医学・科学技術 78.8	軍事・防衛 70.4	医学・科学技術 82.1
教育・文化 57.3	スポーツ 71.6	軍事・防衛 73.8	環境・エネルギー・気候対応 78.6	教育・文化 68.5	スポーツ 80.8
社会保障・福祉 56.6	外交・グローバルリーダーシップ 57.3	教育・文化 69.3	経済・GDP 78.0	スポーツ 66.3	経済・GDP 79.7
環境・エネルギー・気候対応 55.2	経済・GDP 55.7	社会保障・福祉 65.4	外交・グローバルリーダーシップ 76.4	社会保障・福祉 64.8	教育・文化 78.2
軍事・防衛 53.4	教育・文化 55.3	環境・エネルギー・気候対応 65.2	社会保障・福祉 74.8	外交・グローバルリーダーシップ 61.9	外交・グローバルリーダーシップ 75.9
外交・グローバルリーダーシップ 53.1	社会保障・福祉 55.3	経済・GDP 62.6	スポーツ 74.1	環境・エネルギー・気候対応 60.2	社会保障・福祉 74.0
経済・GDP 45.6	環境・エネルギー・気候対応 51.2	外交・グローバルリーダーシップ 61.2	教育・文化 74.0	経済・GDP 58.5	環境・エネルギー・気候対応 66.6

自国の現状 1/3

アメリカ、イギリス、中国、インドでは、「知力やスキルを持つことは成功につながる」と「努力は成功につながる」が同程度に同意されているが、日本、韓国では「知力やスキルを持つことは成功につながる」に同意する回答の方が多い。「全体的に貧富の差は大きくない」に同意するとの回答は、インド、中国では70%弱、韓国では50%弱となり約20ptの差が開いた。

質問2：現在の自国において、以下の項目に同意しますか。（単一回答、各国n=1,000）

※「同意」+「どちらかといえば同意」の回答率を、日本の高い順に掲載

(単位：%)	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
知力やスキルを持つことは成功につながる	74.7	75.0	75.0	69.9	77.4	81.5
努力は成功につながる	65.9	75.5	77.9	68.5	58.9	79.5
誰もどう生きるかを自由に決められる	64.8	67.6	69.8	69.2	67.8	72.1
若者への支援は充実している	58.2	64.5	68.5	66.6	55.4	66.6
高齢者への支援は充実している	57.6	63.3	67.2	69.2	64.8	74.5
誰も努力すれば生活水準を上げることができる	56.0	67.8	65.1	70.1	61.7	76.5
誰も努力をすれば報われる	53.2	63.8	64.8	63.5	60.1	71.9
全体的に貧富の差は大きくない	51.5	60.7	59.8	66.1	47.0	68.0

自国の現状 2/3

性的指向・性自認等、国籍、性別、障がいの有無による社会での活躍等については、6カ国とも大きなばらつきはない。日本では、「国籍によって社会での活躍の場は制限されない」「性別によって社会での活躍の場は制限されない」「同じ知力とスキルがあれば生活水準において性別による格差はない」の項目において同意する割合は他国より低い。

質問2：現在の自国において、以下の項目に同意しますか。（単一回答、各国n=1,000）
※「同意」+「どちらかといえば同意」の回答率を、日本の高い順に掲載

(単位：%)	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
性的指向・性自認等によって社会での活躍の場は制限されない	58.2	64.5	68.5	66.6	55.4	66.6
国籍によって社会での活躍の場は制限されない	57.6	63.3	67.2	69.2	64.8	74.5
性別によって社会での活躍の場は制限されない	55.0	66.1	67.5	68.8	62.3	69.5
同じ知力とスキルがあれば生活水準において性別による格差はない	54.6	59.9	61.3	64.9	60.5	67.7
障害の有無によって社会での活躍の場は制限されない	51.5	60.7	59.8	66.1	47.0	68.0

自国の現状 3/3

日本では、「自国は、国際社会でリーダーシップを発揮できる」「機会があれば留学や他国で就労をしてみたいと思う」に同意するとの回答は、他の国よりも10pt以上少なかったが、「自国には、優れたリーダーがいる」は、アメリカ、イギリス、韓国よりも多かった。

質問4：以下の項目に同意しますか。（単一回答、各国n=1,000）
 ※「同意」+「どちらかといえば同意」の回答率を、日本の高い順に掲載

(単位：%)	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
自国と比べて、他国の方が優れていると思うことがある	67.5	70.7	76.5	59.5	81.6	78.9
自国には、優れたリーダーがいる	57.7	44.1	46.0	77.7	53.3	59.8
自国には、自分が目標としたい人物がいる	56.9	59.7	68.4	76.9	73.0	74.3
自国は、国際社会でリーダーシップを発揮できる	50.3	60.9	67.1	78.2	62.3	74.2
機会があれば留学や他国で就労をしてみたいと思う	50.0	69.3	75.9	69.0	79.0	81.0

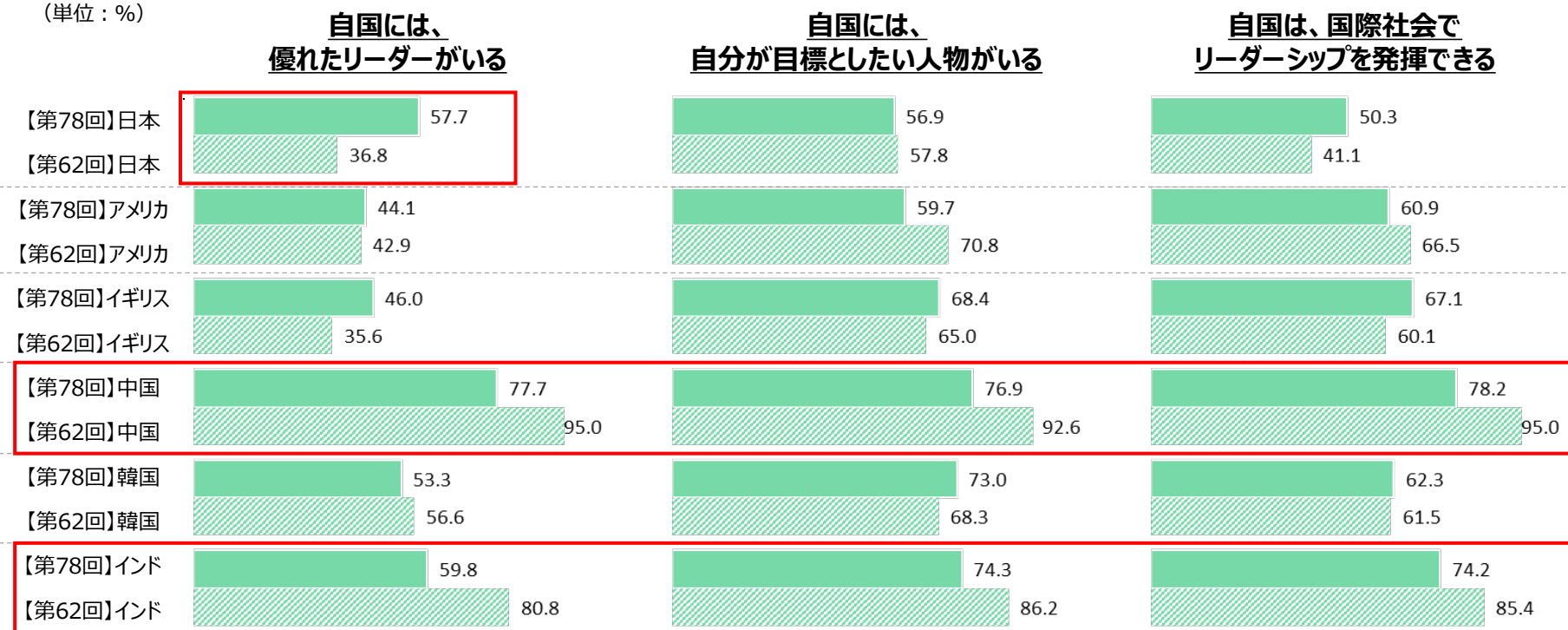
自国の現状 3/3

時系列で見ると、日本における「自国には、優れたリーダーがいる」に同意との回答は、第62回から約20pt増加した。中国、インドは「自国は、国際社会でリーダーシップを発揮できる」「自国には、優れたリーダーがいる」「自国には、自分が目標としたい人物がいる」の3項目で同意するとの回答が第62回より10pt以上減少した。

質問4：以下の項目に同意しますか。（単一回答、各国n=1,000）

※「同意」+「どちらかといえば同意」の回答率を掲載。「自国は、国際社会でリーダーシップを発揮できる」「機会があれば留学や他国で就労してみたいと思う」

(単位：%)



自国のジェンダー意識・結婚・子育て観

6か国共通で、「子供を持つ時期は、夫婦で話し合って選択できるべきだと思う」に同意するとの回答が最も多かった一方、「夫婦に子どもが生まれたら、女性が育児を主に担うべきだと思う」に同意するとの回答は他の項目と比べて10pt以上少なかった。

質問5：あなたのジェンダー意識・結婚・子育て観について伺います。以下の項目について、あなたほどの程度同意しますか。
 (単一回答、各国n=1,000) ※「同意」+「どちらかといえば同意」の回答率を、日本の高い順に掲載

(単位：%)

日本 アメリカ イギリス 中国 韓国 インド

子供を持つ時期は、夫婦で話し合って選択できるべきだと思う 77.0 81.0 84.7 76.9 85.5 84.9

女性のキャリアと家庭の両立には、社会的サポートが必要だと思う 75.1 75.9 80.7 76.8 83.5 82.7

夫か妻のどちらかではなく、夫婦の両方が働いているべきだと思う 66.1 71.2 76.8 76.4 71.2 82.9

将来、パートナーと生活する形として、法律婚だけでなく、事実婚も選択肢に入と思う 65.0 73.4 81.1 68.2 74.4 74.9

学歴が高い男性は、結婚相手を見つけやすいと思う 63.9 64.5 70.8 68.0 70.5 79.2

男性は男性に、女性は女性に適した職業があると思う 63.8 66.4 66.3 74.7 58.7 69.3

結婚して子どもを育てるのが望ましいと思う 59.0 68.9 73.1 62.3 64.0 69.1

将来子どもを育てるとしたら、出産だけでなく、養子縁組も選択肢に入と思う 57.6 74.6 76.5 65.6 78.7 79.2

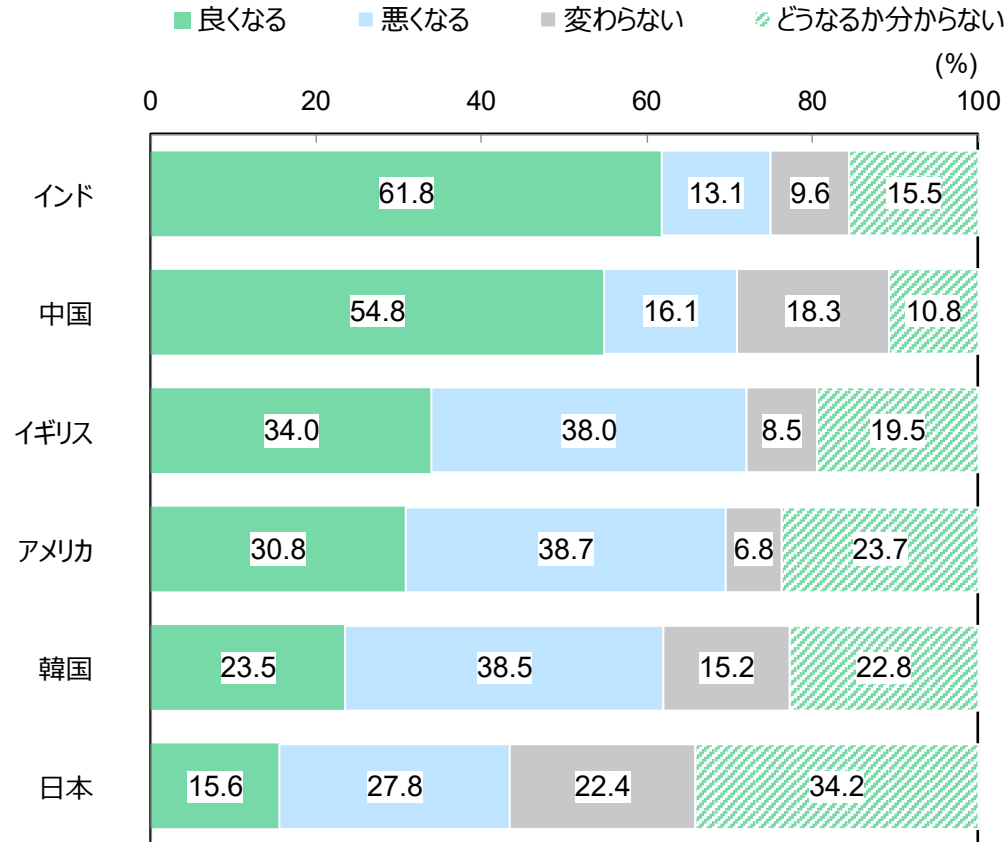
学歴が高い女性は、結婚相手を見つけやすいと思う 55.7 61.2 60.9 63.7 65.8 74.4

夫婦に子どもが生まれたら、女性が育児を主に担うべきだと思う 39.4 46.6 45.6 46.9 37.7 52.9

自分の国の将来

自分の国の将来について、日本は「良くなる」が20%弱と、他の国に差をつけて6カ国中最下位となった。一方で、「悪くなる」との回答は、アメリカ、韓国、イギリスの順に多い。「良くなる」という回答が最も多いのはインドで60%強、次いで中国が50%強となった。

質問6：自国の将来についてどう思いますか。（単一回答、各国n=1,000）

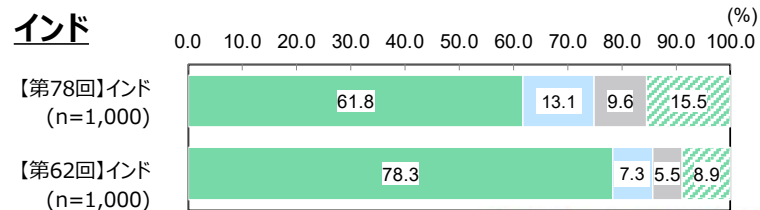
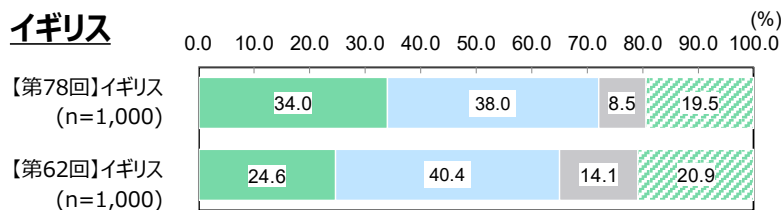
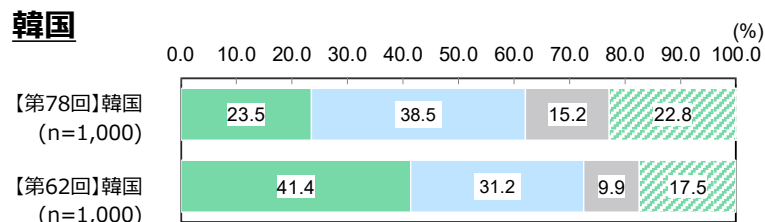
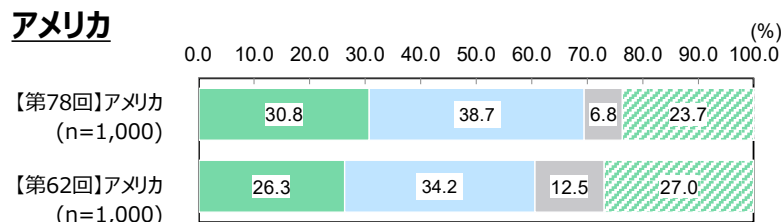
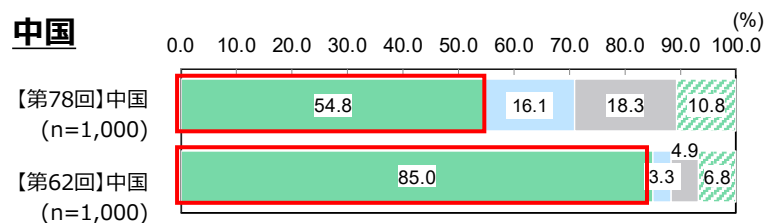
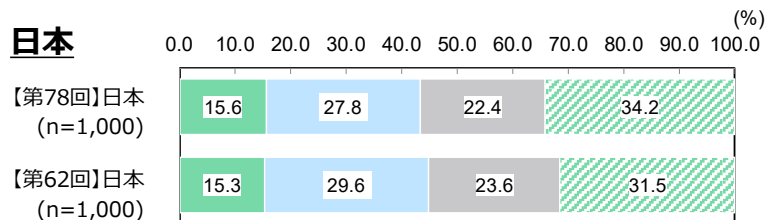


自分の国の将来

自国の将来について、第78回（今回）の日本とアメリカの回答は第62回から大きな変化はない。一方、中国、韓国、インドは「良くなる」の回答が第62回から減少し、特に中国は約30pt減少した。

質問6：自国の将来についてどう思いますか。（単一回答、各国n=1,000）

■ 良くなる ■ 悪くなる ■ 変わらない ■ どうなるか分からない



自分自身

同意するとの回答割合が最も高い項目について、イギリスでは「私の人生には実現したいこと、実現すべきことや達成したい目標がある」となったが、他の国では「私は勉強、仕事、趣味など、何か夢中になれることがある」となった。日本では「私は日々の生活で不安やゆううつを感じる」以外の項目において、他国よりも同意する割合は低い。

質問9：あなた自身について、以下の項目に同意しますか。（単一回答、各国n=1,000）
 ※「同意」+「どちらかといえば同意」の回答率を、日本の高い順に掲載

(単位：%)	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
わたしは勉強、仕事、趣味など、何か夢中になれることがある	71.3	82.2	82.8	77.6	79.4	86.3
わたしはわたしが他人からどのような評価を受けているか気になる	70.2	74.5	77.6	70.5	79.0	72.4
わたしは目標を立て、何かを達成した経験がある	68.9	78.8	81.2	74.1	78.3	83.8
わたしの人生には実現したいこと、実現すべきことや達成したい目標がある	68.4	81.7	86.2	76.3	76.9	85.3
わたしは日々の生活で不安やゆううつを感じる	66.6	67.4	65.0	58.1	66.8	66.6
わたしは日々の生活が楽しい	63.7	70.3	78.6	69.5	70.3	76.5
わたしは将来の夢を持っている	62.4	80.2	83.1	74.0	71.6	86.3
わたしは人に誇れる個性がある	58.6	76.5	82.6	70.1	64.9	83.7
わたしは他人から必要とされている	57.2	70.6	72.6	72.9	69.3	71.9
わたしは困難があっても前向きに回復できると思う	56.8	77.0	76.3	71.8	75.4	81.4

自身と社会の関わり 1/2

日本で同意するとの回答が最も多い「わたしは政治や選挙は、自分の生活に影響すると思う」は、6か国で大きな差はなかった。一方、ばらつきのある項目もあり、例えば、「わたしは大人だと思う」は、最も高いインドで80%弱、低い韓国・日本は50%強となった。

質問8：あなた自身と社会の関りについて、以下の項目に同意しますか。（単一回答、各国n=1,000）
※「同意」+「どちらかといえば同意」の回答率を、日本の高い順に掲載

	(単位：%) 日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
わたしは政治や選挙は自分の生活に影響すると思う	71.6	74.3	78.1	66.5	76.9	73.5
わたしはこれからも新しいことを学び続けたい	70.3	81.7	84.0	77.6	82.0	85.5
わたしは政治や選挙、社会問題について、家族や友人と議論することは大切だと思う	69.9	68.5	75.9	66.8	71.2	81.4
わたしは国や社会に役立つことをしたい	68.0	76.7	79.7	78.3	75.4	83.7
わたしは責任がある社会の一員だと思う	65.4	74.3	80.5	75.8	74.2	84.4
わたしは政治や選挙、社会問題について、自分の考えを持っている	63.3	77.5	78.1	71.7	71.6	82.9
わたしは大人だと思う	53.9	71.1	76.6	66.3	54.9	79.4
わたしの行動で国や社会を変えられると思う	52.7	66.7	66.3	69.5	60.8	78.0

自身と社会の関わり 2/2

全ての項目で、日本は6カ国中最下位となった。日本と最も高い国との差が一番あった項目は「わたしは慈善活動のために寄付をしたい」であった。

質問8：あなた自身と社会の関りについて、以下の項目に同意しますか。（単一回答、各国n=1,000）
※「同意」+「どちらかといえば同意」の回答率を、日本の高い順に掲載

(単位：%)	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
わたしは自分が生きていくうえで、他人に迷惑をかけないことは重要だと思う	74.0	77.9	82.7	76.9	85.2	86.2
わたしはありのままの自分で、安心して過ごせる環境が身近にあると思う	68.2	74.7	77.0	75.8	73.7	76.3
わたしは子どもや若者としての自分の権利を意識していると思う	64.4	77.9	80.4	78.2	78.9	83.2
わたしはボランティア活動に参加したい	60.6	74.2	73.0	73.5	73.6	81.6
わたしは慈善活動のために寄付をしたい	57.7	75.4	77.8	70.7	71.2	82.8
わたしは地域の集会や行事への参加を通じて、近所の人と関わりたい	53.7	67.4	70.5	69.1	64.2	77.3

自分の生活についての満足度

自分の生活において満足していることについて、日本、イギリス、韓国、インドは「家族との関係」、アメリカ、中国は「友人との関係」との回答が最も多い。「自分の人生」に満足しているとの回答は、日本、アメリカ、中国、韓国で最下位となった。

質問10：あなた自身の以下の項目について、あなたは満足していますか。（単一回答、各国n=1,000）
※「満足している」+「どちらかといえば満足している」の回答率を、高い順に掲載

（単位：％）

	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
家族との関係	72.8	友人との関係 77.0	家族との関係 81.6	友人との関係 74.0	家族との関係 79.4	家族との関係 82.4
友人との関係	70.2	生活水準 (家、洋服、車など) 74.7	友人との関係 81.3	生活水準 (家、洋服、車など) 73.3	生活水準 (家、洋服、車など) 79.2	友人との関係 81.9
生活水準 (家、洋服、車など)	69.4	家族との関係 73.6	自分の人生 79.0	生きる意義・生きがい 71.5	友人との関係 76.3	生きる意義・生きがい 80.0
生きる意義・生きがい	65.2	生きる意義・生きがい 72.1	生活水準 (家、洋服、車など) 78.0	家族との関係 71.4	生きる意義・生きがい 69.6	自分の人生 78.0
自分の人生	63.3	自分の人生 71.8	生きる意義・生きがい 73.4	自分の人生 68.4	自分の人生 67.6	生活水準 (家、洋服、車など) 77.3

人生において大切にしたいと思っていること

人生において大切にしたいと思っていることについて、アメリカ、イギリス、中国、韓国、インドでは、「家族」との回答が最も多い一方、日本では「自身の好きなことややりたいこと・趣味」との回答が最も多かった。日本における「セルフケア・寛ぎ」との回答は10%強と他国よりも少なかった。

質問14：あなたの人生において、あなたが大切にしたいと思っていることは何ですか。以下から3つまで選択してください。
(複数回答3つまで)

日本 (n=1,000)	アメリカ (n=1,000)	イギリス (n=1,000)	中国 (n=1,000)	韓国 (n=1,000)	インド (n=1,000)
1位 自身の好きなことややりたいこと・趣味 48.0%	1位 家族※ 50.2%	1位 家族※ 52.0%	1位 家族※ 39.2%	1位 家族※ 54.1%	1位 家族※ 56.2%
2位 家族※ 41.6%	2位 友達 36.0%	2位 友達 39.5%	2位 心身の健康 34.0%	2位 自身の好きなことややりたいこと・趣味 44.9%	2位 心身の健康 41.0%
3位 友達 35.0%	3位 心身の健康 34.9%	3位 心身の健康 36.5%	3位 自身の好きなことややりたいこと・趣味 33.4%	3位 セルフケア・寛ぎ 34.8%	3位 仕事・スキルアップ 30.2%
4位 心身の健康 33.5%	4位 自身の好きなことややりたいこと・趣味 30.5%	4位 セルフケア・寛ぎ 29.4%	4位 資産の形成 30.8%	4位 友達 33.9%	4位 友達 29.7%
5位 恋愛 19.2%	5位 セルフケア・寛ぎ 29.3%	5位 自身の好きなことややりたいこと・趣味 28.3%	5位 セルフケア・寛ぎ 25.9%	5位 資産の形成 30.0%	5位 セルフケア・寛ぎ 29.2%
6位 仕事・スキルアップ 16.4%	6位 恋愛 27.2%	6位 恋愛 27.3%	6位 仕事・スキルアップ 21.2%	6位 心身の健康 23.9%	6位 自身の好きなことややりたいこと・趣味 20.1%
7位 資産の形成 15.7%	7位 仕事・スキルアップ 21.0%	7位 資産の形成 24.3%	7位 友達 19.7%	7位 仕事・スキルアップ 21.7%	7位 資産の形成 17.8%
8位 セルフケア・寛ぎ 11.4%	8位 資産の形成 18.8%	8位 仕事・スキルアップ 22.2%	8位 社会への貢献 19.6%	8位 恋愛 21.0%	8位 恋愛 15.6%
9位 社会への貢献 10.1%	9位 社会への貢献 14.5%	9位 社会への貢献 12.0%	9位 恋愛 17.9%	9位 社会への貢献 8.1%	9位 社会への貢献 14.9%
その他 9.6%	その他 4.4%	その他 2.2%	その他 4.0%	その他 1.3%	その他 4.1%

学校で勉強をする意味として重視してきたもの

6カ国共通して、「将来の選択肢が広がる」「新しい学びや能力を得ることができる」「よりよい職業に就職できる」が上位に挙げられた。一方、「周囲の人・コミュニティに貢献できるようになる」は各国共通で9位以下となった。日本では、「特にない」が約20%と他の国に差をつけて多い。

質問11：あなたが重視してきた“学校で勉強する意味”を以下から3つまで選択してください。（複数回答3つまで）
※各国上位10項目と、「特にない」のスコアを掲載

日本 (n=1,000)	アメリカ (n=1,000)	イギリス (n=1,000)	中国 (n=1,000)	韓国 (n=1,000)	インド (n=1,000)
1位 将来の選択肢が広がる 33.7%	1位 新しい学びや能力を得ることができる 33.4%	1位 新しい学びや能力を得ることができる 34.6%	1位 将来の所得が高くなる 25.7%	1位 将来の選択肢が広がる 31.6%	1位 新しい学びや能力を得ることができる 32.7%
2位 新しい学びや能力を得ることができる 24.8%	2位 将来の所得が高くなる 29.8%	2位 よりよい職業に就職できる 29.8%	2位 将来の選択肢が広がる 21.8%	2位 新しい学びや能力を得ることができる 27.5%	2位 人生の目標が見つかる 31.2%
3位 よりよい職業に就職できる 18.1%	3位 よりよい職業に就職できる 26.8%	3位 将来の選択肢が広がる 29.1%	3位 新しい学びや能力を得ることができる 21.1%	3位 よりよい職業に就職できる 25.3%	3位 将来の所得が高くなる 26.5%
4位 人生の目標が見つかる 15.8%	4位 将来の選択肢が広がる 26.5%	4位 将来の所得が高くなる 28.7%	4位 よりよい職業に就職できる 20.4%	4位 よりよい学校に進学できる 22.2%	4位 よりよい職業に就職できる 22.9%
5位 日々の暮らしに役に立つ 14.8%	5位 人生の目標が見つかる 24.9%	5位 人生の目標が見つかる 22.2%	5位 人生の目標が見つかる 20.0%	5位 勉強することが義務だから 21.5%	5位 専門知識を得ることができる 20.7%
6位 将来の所得が高くなる 14.7%	6位 専門知識を得ることができる 19.1%	6位 専門知識を得ることができる 22.1%	6位 専門知識を得ることができる 17.6%	6位 将来の所得が高くなる 21.4%	6位 将来の選択肢が広がる 18.8%
7位 新しい人と出会う 13.8%	7位 日々の暮らしに役に立つ 18.2%	7位 新しい人と出会う 18.8%	7位 自国に貢献できるようになる 16.4%	7位 新しい人と出会う 21.3%	7位 自国に貢献できるようになる 15.4%
8位 よりよい学校に進学できる 13.5%	8位 新しい人と出会う 15.0%	8位 日々の暮らしに役に立つ 14.7%	8位 新しい人と出会う 15.1%	8位 人生の目標が見つかる 18.4%	8位 日々の暮らしに役に立つ 13.9%
9位 専門知識を得ることができる 13.3%	9位 よりよい学校に進学できる 12.4%	9位 周囲の人・コミュニティに貢献できるようになる 12.9%	9位 日々の暮らしに役に立つ 13.8%	9位 日々の暮らしに役に立つ 16.6%	9位 新しい人と出会う 13.1%
10位 周囲の人・コミュニティに貢献できるようになる 11.5%	10位 周囲の人・コミュニティに貢献できるようになる 11.8%	10位 よりよい学校に進学できる 9.9%	10位 よりよい学校に進学できる 13.7%	10位 専門知識を得ることができる 15.6%	10位 周囲の人・コミュニティに貢献できるようになる 11.6%
特にない 19.3%	特にない 2.8%	特にない 2%	特にない 1.5%	特にない 2.6%	特にない 1.0%

仕事を選ぶうえで重視するもの

6か国共通して「給料の高さ」「自分の趣味・関心と合致するか」「安定性（不況やリスラの懸念の少なさ）」が上位に挙がった。各国の上位10項目のうち、「独立することができるか」のみ、日本では挙げられていなかった。また、日本では「特にない」が20%弱と他の国に差をつけて多い。

質問12：仕事を選ぶうえで、あなたが重視することを以下から3つまで選択してください。（複数回答3つまで）
※各国上位10項目と、「特にない」のスコアを掲載

日本 (n=1,000)		アメリカ (n=1,000)		イギリス (n=1,000)		中国 (n=1,000)		韓国 (n=1,000)		インド (n=1,000)				
1位	給料の高さ	42.4%	1位	給料の高さ	43.5%	1位	給料の高さ	44.8%	1位	自分の興味・関心と合致するかどうか	49.9%	1位	給料の高さ	39.0%
2位	自分の興味・関心と合致するかどうか	34.1%	2位	自分の興味・関心と合致するかどうか	35.0%	2位	自分の興味・関心と合致するかどうか	39.6%	2位	給料の高さ	46.9%	2位	独立することができるか	31.9%
3位	安定性（不況やリスラの懸念の少なさ）	29.9%	3位	安定性（不況やリスラの懸念の少なさ）	29.2%	3位	安定性（不況やリスラの懸念の少なさ）	30.3%	3位	安定性（不況やリスラの懸念の少なさ）	34.3%	3位	自分が新しい学びや能力を得られるかどうか	27.1%
4位	プライベートの時間を確保できるか	29.5%	4位	プライベートの時間を確保できるか	25.3%	4位	プライベートの時間を確保できるか	27.0%	4位	プライベートの時間を確保できるか	34.0%	4位	自分の興味・関心と合致するかどうか	25.3%
5位	自分が新しい学びや能力を得られるかどうか	12.7%	5位	自分が新しい学びや能力を得られるかどうか	25.0%	5位	自分が新しい学びや能力を得られるかどうか	25.4%	5位	自律的に自分の判断で仕事を進められるかどうか	17.8%	5位	プライベートの時間を確保できるか	23.8%
6位	専門的な知識を活かすことができるか	12.1%	6位	独立することができるか	17.3%	6位	独立することができるか	18.4%	6位	自分が新しい学びや能力を得られるかどうか	16.2%	6位	安定性（不況やリスラの懸念の少なさ）	18.8%
7位	周囲の人・コミュニティに貢献できるか	10.2%	7位	周囲の人・コミュニティに貢献できるか	16.0%	7位	周囲の人・コミュニティに貢献できるか	14.8%	7位	専門的な知識を活かすことができるか	14.9%	7位	自国に貢献できるか	16.7%
8位	人との接点を持つことができる・コミュニケーションを必要とするか	10.0%	8位	専門的な知識を活かすことができるか	14.3%	8位	専門的な知識を活かすことができるか	14.5%	8位	自律的に自分の判断で仕事を進められるかどうか	16.1%	8位	独立することができるか	15.7%
9位	自律的に自分の判断で仕事を進められるかどうか	7.6%	9位	自律的に自分の判断で仕事を進められるかどうか	12.8%	9位	自律的に自分の判断で仕事を進められるかどうか	12.5%	9位	自国に貢献できるか	16.0%	9位	人との接点を持つことができる・コミュニケーションを必要とするか	12.5%
10位	自国に貢献できるか	5.8%	10位	人との接点を持つことができる・コミュニケーションを必要とするか	11.0%	10位	リモートワークができるかどうか	12.4%	10位	国際社会に貢献できるか	15.7%	10位	自律的に自分の判断で仕事を進められるかどうか	12.4%
	特にない	17.9%		特にない	2.7%		特にない	1.0%		特にない	1.3%		特にない	1.4%

なりたい職業

日本では「芸能・音楽・映画」「観光・宿泊・飲食」「教師・講師・保育士」がなりたい職業の上位に挙がった。また、「特にない」との回答が20%強と他の国に大きく差をつけて多い。「芸能・音楽・映画」「教師・講師・保育士」「医師・看護師」「デジタルインフルエンサー（SNS・ブログ）」は6カ国共通してトップ10に挙がっている。

質問13：もしあなたが全ての「職種」や「業種」から自由に仕事を選べるとしたらどれを選びますか。以下から3つまで選択してください。（複数回答3つまで）※各国上位10項目と、「特にない」のスコアを掲載

日本 (n=1,000)		アメリカ (n=1,000)		イギリス (n=1,000)		中国 (n=1,000)		韓国 (n=1,000)		インド (n=1,000)	
1位	芸能・音楽・美術 20.5%	1位	芸能・音楽・美術 22.4%	1位	芸能・音楽・美術 16.5%	1位	デジタルインフルエンサー（SNS・ブログ） 13.1%	1位	芸能・音楽・美術 21.2%	1位	ソフトウェア技術・開発 23.3%
2位	観光・宿泊・飲食 14.1%	2位	医師・看護師・介護士 14.0%	2位	医師・看護師・介護士 15.0%	2位	国や自治体の職員（公務員）※1 11.8%	2位	デジタルインフルエンサー（SNS・ブログ） 18.1%	2位	国や自治体の職員（公務員） 18.0%
3位	教師・講師・保育士 10.6%	3位	デジタルインフルエンサー（SNS・ブログ） 13.3%	3位	デジタルインフルエンサー（SNS・ブログ） 12.8%	3位	芸能・音楽・美術 11.3%	3位	医師・看護師・介護士 16.2%	3位	芸能・音楽・美術 17.5%
4位	医師・看護師・介護士 10.5%	4位	不動産 12.6%	4位	不動産 12.7%	4位	ソフトウェア技術・開発 11.0%	4位	教師・講師・保育士 14.3%	4位	デジタルインフルエンサー（SNS・ブログ） 13.8%
5位	国や自治体の職員（公務員） 10.2%	5位	教師・講師・保育士 11.3%	5位	教師・講師・保育士 12.7%	5位	政治家※2 10.4%	5位	ソフトウェア技術・開発 13.1%	5位	医師・看護師・介護士 12.8%
6位	デジタルインフルエンサー（SNS・ブログ） 7.0%	6位	設計・建築・建設 11.1%	6位	メディア・ジャーナリスト 11.5%	6位	学術研究者 10.3%	6位	獣医師・動物看護師・ブリーダー 11.6%	6位	調査・データ分析 12.0%
7位	会計士・税理士 6.7%	7位	ソフトウェア技術・開発 10.9%	7位	裁判官・弁護士・検察官 11.3%	7位	医師・看護師・介護士 9.9%	7位	メディア・ジャーナリスト 9.9%	7位	銀行・保険・証券 11.3%
8位	ソフトウェア技術・開発 6.7%	8位	メディア・ジャーナリスト 9.8%	8位	設計・建築・建設 11.0%	8位	設計・建築・建設 9.7%	8位	化学・医薬品 9.7%	8位	設計・建築・建設 11.1%
9位	銀行・保険・証券 6.3%	9位	社会福祉 9.7%	9位	ソフトウェア技術・開発 10.8%	9位	教師・講師・保育士 9.5%	9位	警察・消防・保安 9.1%	9位	教師・講師・保育士 10.2%
10位	社会福祉 6.0%	10位	獣医師・動物看護師・ブリーダー 9.0%	10位	銀行・保険・証券 9.9%	10位	小売・卸売 9.4%	10位	裁判官・弁護士・検察官 9.0%	10位	社会福祉 10.0%
その他	7.0%	その他	8.8%	その他	7.5%	その他	3.0%	その他	6.3%	その他	6.4%
特にない	22.5%	特にない	3.8%	特にない	1.7%	特にない	2.2%	特にない	3.0%	特にない	1.0%

※1：中国の「国や自治体の職員（公務員）」は、行政運営、法の執行、公共サービスの提供など、実務的な業務に従事する公職者を意味する。

※2：中国の「政治家」は、政治家・党政を指導する幹部（党や国家の方針を決定し、国家運営や重要政策の意思決定に関与する指導的立場の者）を意味する。

信頼している情報源

信頼している情報源は、6か国共通して「自国の政府」「家族」との回答が上位に挙がった。韓国、インド、中国では「米国政府」との回答も4～5位に挙がっている。日本のみ、「生成AI」との回答が10%強と他国よりも多い。

質問15：あなたは、以下からの情報を信頼していますか。あなたが信頼する情報源を以下から5つまで選択してください。
 (複数回答5つまで) ※各国上位11項目のスコアを掲載

日本 (n=1,000)		アメリカ (n=1,000)		イギリス (n=1,000)		中国 (n=1,000)		韓国 (n=1,000)		インド (n=1,000)							
1位	自国の政府	44.4%	1位	家族	45.4%	1位	家族	47.1%	1位	自国の政府	50.5%	1位	自国の政府	37.1%	1位	自国の政府	56.0%
2位	家族	39.9%	2位	友人	38.3%	2位	友人	37.4%	2位	自国の警察	22.0%	2位	家族	36.5%	2位	家族	44.2%
3位	友人	28.9%	3位	自国の政府	34.7%	3位	自国の政府	36.4%	3位	UN (国際連合)	21.8%	3位	UN (国際連合)	36.1%	3位	友人	29.0%
4位	学校などの先生	14.0%	4位	自国の大学・研究機関	22.0%	4位	自国の大学・研究機関	24.8%	4位	家族	18.5%	4位	米国政府	35.6%	4位	学校などの先生	18.0%
5位	自国の大学・研究機関	12.9%	5位	世界的に有名な大学・研究機関	17.9%	5位	EU (欧州連合)	23.1%	5位	米国政府	15.5%	5位	友人	23.2%	5位	米国政府	17.8%
6位	自国のメディア	12.7%	6位	学校などの先生	16.4%	6位	UN (国際連合)	17.8%	6位	世界的に有名な大学・研究機関	15.0%	6位	世界的に有名な大学・研究機関	19.4%	6位	自国の警察	17.4%
7位	生成AI	11.9%	7位	UN (国際連合)	16.0%	7位	世界的に有名な大学・研究機関	17.5%	7位	自国の大学・研究機関	14.1%	7位	EU (欧州連合)	18.5%	7位	自国の大学・研究機関	15.5%
8位	世界的に有名な大学・研究機関	11.8%	8位	先輩	13.9%	8位	学校などの先生	15.8%	8位	EU (欧州連合)	13.4%	8位	英国政府	11.6%	8位	世界的に有名な大学・研究機関	13.3%
9位	自国の警察	9.1%	9位	非営利団体・NPO	13.6%	9位	自国の警察	13.9%	9位	自国の大企業・産業界	12.9%	9位	学校などの先生	11.3%	9位	英国政府	13.1%
10位	米国政府	8.7%	10位	英国政府	12.2%	10位	非営利団体・NPO	13.3%	10位	自国のメディア	12.9%	10位	国際的なメディア	9.9%	10位	先輩	10.1%
11位	国際的なメディア	8.7%	11位	自国の警察	10.6%	11位	米国政府	11.5%	11位	韓国政府	12.8%	11位	自国の大学・研究機関	9.2%	11位	UN (国際連合)	10.0%

生成AIの用途

生成AIの用途として、6か国共通して「情報収集するため」「授業などではよく理解できなかった事柄・事象（社会・政治・科学・数学・文学等）についての理解を深めるため」との回答が上位に挙がった。日本では、「生成AIを使ったことがない」の回答が20%弱と他の国に差をつけて多い。

質問16：あなたは、どのような用途で生成AIを使うことが多いですか。頻度の高い用途を以下から3つまで選択してください。（複数回答3つまで） ※各国上位10項目と、「生成AIを使ったことがない」のスコアを掲載

日本 (n=1,000)		アメリカ (n=1,000)		イギリス (n=1,000)		中国 (n=1,000)		韓国 (n=1,000)		インド (n=1,000)	
1位	情報収集するため 28.1%	1位	授業などではよく理解できなかった事柄・事象※についての理解を深めるため 34.1%	1位	情報収集するため 36.5%	1位	授業などではよく理解できなかった事柄・事象※についての理解を深めるため 29.2%	1位	情報収集するため 43.2%	1位	情報収集するため 37.2%
2位	学校の宿題や職場で使う資料の文章を作ってもらうため 27.7%	2位	情報収集するため 31.8%	2位	授業などではよく理解できなかった事柄・事象※についての理解を深めるため 34.1%	2位	学校の宿題や職場で使う資料の文章を作ってもらうため 28.9%	2位	学校の宿題や職場で使う資料の文章を作ってもらうため 41.9%	2位	授業などではよく理解できなかった事柄・事象※についての理解を深めるため 35.6%
3位	授業などではよく理解できなかった事柄・事象※についての理解を深めるため 23.7%	3位	自分や周りの人だけではなかなか発想できないアイデアを出すため 26.8%	3位	自分や周りの人だけではなかなか発想できないアイデアを出すため 26.6%	3位	情報収集するため 27.6%	3位	授業などではよく理解できなかった事柄・事象※についての理解を深めるため 34.4%	3位	学校の宿題や職場で使う資料の文章を作ってもらうため 30.1%
4位	悩みや愚痴を聞いてもらうため 21.8%	4位	暇つぶし（特に用途はない時に使ったことがある） 20.4%	4位	学校の宿題や職場で使う資料の文章を作ってもらうため 24.8%	4位	外国語の練習・翻訳など、他言語を習得・理解するため 24.4%	4位	悩みや愚痴を聞いてもらうため 26.4%	4位	自分や周りの人だけではなかなか発想できないアイデアを出すため 28.8%
5位	暇つぶし（特に用途はない時に使ったことがある） 21.7%	5位	学校の宿題や職場で使う資料の文章を作ってもらうため 20.0%	5位	暇つぶし（特に用途はない時に使ったことがある） 16.8%	5位	暇つぶし（特に用途はない時に使ったことがある） 21.3%	5位	暇つぶし（特に用途はない時に使ったことがある） 24.4%	5位	プログラミングのため 24.1%
6位	自分や周りの人だけではなかなか発想できないアイデアを出すため 18.3%	6位	外国語の練習・翻訳など、他言語を習得・理解するため 16.2%	6位	悩みや愚痴を聞いてもらうため 15.6%	6位	自分や周りの人だけではなかなか発想できないアイデアを出すため 20.7%	6位	自分や周りの人だけではなかなか発想できないアイデアを出すため 18.2%	6位	音楽やイラストなど、アート・創作活動を効率化するため 23.3%
7位	外国語の練習・翻訳など、他言語を習得・理解するため 15.2%	7位	音楽やイラストなど、アート・創作活動を効率化するため 15.8%	7位	音楽やイラストなど、アート・創作活動を効率化するため 14.9%	7位	悩みや愚痴を聞いてもらうため 20.0%	7位	外国語の練習・翻訳など、他言語を習得・理解するため 15.5%	7位	外国語の練習・翻訳など、他言語を習得・理解するため 21.0%
8位	音楽やイラストなど、アート・創作活動を効率化するため 7.6%	8位	本を読んだり映画を見たりせずに、そのストーリーやテーマを知るため 14.8%	8位	外国語の練習・翻訳など、他言語を習得・理解するため 14.0%	8位	音楽やイラストなど、アート・創作活動を効率化するため 19.1%	8位	本を読んだり映画を見たりせずに、そのストーリーやテーマを知るため 13.5%	8位	悩みや愚痴を聞いてもらうため 15.3%
9位	プログラミングのため 6.9%	9位	悩みや愚痴を聞いてもらうため 14.1%	9位	本を読んだり映画を見たりせずに、そのストーリーやテーマを知るため 13.4%	9位	本を読んだり映画を見たりせずに、そのストーリーやテーマを知るため 16.8%	9位	音楽やイラストなど、アート・創作活動を効率化するため 11.1%	9位	本を読んだり映画を見たりせずに、そのストーリーやテーマを知るため 14.7%
10位	本を読んだり映画を見たりせずに、そのストーリーやテーマを知るため 5.2%	10位	プログラミングのため 12.3%	10位	プログラミングのため 12.9%	10位	プログラミングのため 12.5%	10位	プログラミングのため 10.7%	10位	暇つぶし（特に用途はない時に使ったことがある） 8.9%
	生成AIを使ったことがない 18.3%		生成AIを使ったことがない 10.9%		生成AIを使ったことがない 9.2%		生成AIを使ったことがない 3.5%		生成AIを使ったことがない 2.6%		生成AIを使ったことがない 1.6%

生成AIのメリット

生成AIのメリットについて、6か国共通で「AIの利用は、文書作成や情報収集・分析等の作業効率を高めると思う」に同意との回答が多かった。アメリカは、「AIの普及により、情報へのアクセスが公平になると思う」を除く全ての項目で6か国最下位となった。インドでは「AIの普及により、起業が増えると思う」に同意との回答が他国よりも約10pt多い。

質問17：生成AIのメリットについて、以下の項目に同意しますか。（単一回答、各国n=1,000）

※ 「同意」+「どちらかといえば同意」の回答率を、日本の高い順（「全体として、AIは社会に悪い影響よりも良い影響を与えると思う」を除く）に掲載

	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
AIの利用は、文書作成や情報収集・分析等の作業効率を高めると思う	76.0	68.5	77.3	76.1	87.6	85.8
AIの普及により、イノベーションが加速すると思う	69.8	60.4	65.6	75.1	84.2	81.8
人手不足にある仕事において、生成AIの活用によりその問題は解決されると思う	68.2	51.5	56.5	75.1	75.4	73.7
AIの普及により、起業が増えると思う	64.3	60.9	70.5	73.6	65.4	83.4
AI利用は、自分の創造性を拡張すると思う	62.7	56.7	57.6	72.0	66.2	76.9
AIの普及により、情報へのアクセスが公平になると思う	62.0	64.1	69.9	74.6	77.0	82.3
全体として、AIは社会に悪い影響よりも良い影響を与えると思う	64.5	54.1	57.1	74.1	70.2	76.6

生成AIのリスク

生成AIのリスクについて、日本では「AIが誤った判断をしても、人間が気づけない場合があると思う」「AIの出力する結果には、偏り（バイアス）が含まれていると思う」「AIの利用により、人間の考える力は低下すると思う」の順に同意するとの回答が多かった。中国は全ての項目で6カ国中最下位となった。

質問18：生成AIのリスクについて、以下の項目に同意しますか。（単一回答、各国n=1,000）
※「同意」+「どちらかといえば同意」の回答率を、日本の高い順に掲載

(単位：%)	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
AIが誤った判断をしても、人間が気づけない場合があると思う	77.0	79.5	83.1	66.9	85.8	83.6
AIの出力する結果には、偏り（バイアス）が含まれていると思う	75.4	73.6	73.3	67.5	82.7	75.8
AIの利用により、人間の考える力は低下すると思う	74.5	77.6	76.2	65.7	81.2	84.3
AIの判断基準が分からず、透明性が不足していると思う	73.9	75.0	77.1	65.7	81.1	77.8
AIの普及により、就ける仕事が減ると思う	71.0	76.4	77.5	66.2	80.8	82.4
政府や企業が責任をもってAIを管理できるとは思わない	71.0	73.8	74.4	54.7	80.2	75.4
自分の個人情報知らないうちにAIの学習に利用されているのではないかと不安に思う	68.7	75.4	74.7	67.7	80.3	83.4
AIの普及により、人との会話やコミュニケーションが減ると思う	66.6	72.9	74.4	60.5	70.6	80.0
全体として、AIは社会に良い影響よりも悪い影響を与えと思う	63.2	70.2	73.3	53.6	63.2	69.6
AIの利用により、人間の個性は失われると思う	63.1	72.1	75.7	61.4	77.9	78.0

生成AIが活用されるべき分野

生成AIが活用されるべき分野について、6か国共通で「SNS上の有害投稿の検出」「進学・キャリアのアドバイス」「気候変動の予測や災害対応」との回答が上位3位に、「恋愛・出会いのマッチング」「政策決定・政治判断」「信仰（宗教）の助言」との回答が下位3位となった。

質問19：生成AIは、以下の分野でどの程度活用されるべきだと思いますか。（単一回答、各国n=1,000）

日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
SNS上の有害投稿の検出 68.9	SNS上の有害投稿の検出 73.2	SNS上の有害投稿の検出 78.3	進学・キャリアのアドバイス 73.5	気候変動の予測や災害対応 87.4	進学・キャリアのアドバイス 86.1
進学・キャリアのアドバイス 66.4	進学・キャリアのアドバイス 69.9	進学・キャリアのアドバイス 74.5	SNS上の有害投稿の検出 72.9	SNS上の有害投稿の検出 83.2	気候変動の予測や災害対応 84.0
気候変動の予測や災害対応 65.2	気候変動の予測や災害対応 66.0	気候変動の予測や災害対応 68.2	気候変動の予測や災害対応 71.8	進学・キャリアのアドバイス 82.0	SNS上の有害投稿の検出 83.3
犯罪捜査の支援 64.0	メンタルヘルス支援 60.0	価値観・生き方の助言 65.7	メンタルヘルス支援 71.1	犯罪捜査の支援 81.0	メンタルヘルス支援 80.2
メンタルヘルス支援 62.9	価値観・生き方の助言 59.8	新薬・医療技術の開発 65.3	価値観・生き方の助言 70.7	新薬・医療技術の開発 78.5	価値観・生き方の助言 79.3
新薬・医療技術の開発 59.2	犯罪捜査の支援 59.2	メンタルヘルス支援 63.5	犯罪捜査の支援 69.7	メンタルヘルス支援 76.0	犯罪捜査の支援 76.5
価値観・生き方の助言 58.4	新薬・医療技術の開発 59.2	犯罪捜査の支援 62.4	新薬・医療技術の開発 68.5	価値観・生き方の助言 73.3	新薬・医療技術の開発 76.0
恋愛・出会いのマッチング 57.0	恋愛・出会いのマッチング 53.1	恋愛・出会いのマッチング 56.8	恋愛・出会いのマッチング 58.6	恋愛・出会いのマッチング 57.2	政策決定・政治判断 68.3
政策決定・政治判断 43.8	信仰（宗教）の助言 50.7	信仰（宗教）の助言 52.1	政策決定・政治判断 56.7	政策決定・政治判断 56.4	信仰（宗教）の助言 63.9
信仰（宗教）の助言 35.9	政策決定・政治判断 49.5	政策決定・政治判断 50.7	信仰（宗教）の助言 54.7	信仰（宗教）の助言 48.9	恋愛・出会いのマッチング 63.8

生成AIによる学校や先生の役割変化

6カ国共通して、「今よりも生徒の『考える力』を育む役割が求められる」が上位に挙がる。「生成AIの使い方・ルールを教える役割が求められる」も各国で上位に挙がったが中国のみ約20%で9位となった。日本では、「わからない」が約20%と他の国に差をつけて多い。

質問20：生成AIの登場によって、あなたは、学校や先生の役割は変わると思いませんか。変わるとすると、どのように変わると思いませんか。特に該当すると思うものを最大3つ選んでください。（複数回答3つまで）
※各国上位9項目と、「わからない」のスコアを掲載

日本 (n=1,000)		アメリカ (n=1,000)		イギリス (n=1,000)		中国 (n=1,000)		韓国 (n=1,000)		インド (n=1,000)	
1位	今よりも生徒の「考える力」を育む役割が求められる 27.8%	1位	生成AIの使い方・ルールを教える役割が求められる 29.5%	1位	生成AIの使い方・ルールを教える役割が求められる 30.6%	1位	今よりも生徒の「考える力」を育む役割が求められる 31.1%	1位	生成AIの使い方・ルールを教える役割が求められる 31.5%	1位	今よりも生徒の「考える力」を育む役割が求められる 28.4%
2位	生成AIの使い方・ルールを教える役割が求められる 26.0%	2位	AIによる自己学習が中心となり週1回登校等の補助的な役割を担うことになる 24.3%	2位	AIによる自己学習が中心となり週1回登校等の補助的な役割を担うことになる 26.1%	2位	今よりも「人間関係」や「コミュニケーション」を学ぶ場としての役割が求められる 27.4%	2位	今よりも「子どもの個性」に合わせた学びの場としての役割が求められる 26.7%	2位	AIによる自己学習が中心となり週1回登校等の補助的な役割を担うことになる 27.7%
3位	今よりも「人間関係」や「コミュニケーション」を学ぶ場としての役割が求められる 22.4%	3位	今よりも生徒の「考える力」を育む役割が求められる 24.2%	3位	AIによる自己学習のみで完結し、今のような学校や先生はなくなる 24.9%	3位	今よりも「精神的なサポート」としての役割が求められる 26.2%	3位	今よりも「人間関係」や「コミュニケーション」を学ぶ場としての役割が求められる 25.2%	3位	生成AIの使い方・ルールを教える役割が求められる 26.7%
4位	今よりも生徒の「学ぶ意欲」を高める役割が求められる 17.0%	4位	AIによる自己学習のみで完結し、今のような学校や先生はなくなる 24.1%	4位	今よりも生徒の「考える力」を育む役割が求められる 24.3%	4位	今よりも「子どもの個性」に合わせた学びの場としての役割が求められる 22.4%	4位	今よりも生徒の「考える力」を育む役割が求められる 23.9%	4位	自己学習では学べない「高度な学習」の場としての役割が求められる 26.2%
5位	今よりも「子どもの個性」に合わせた学びの場としての役割が求められる 16.8%	5位	今よりも「人間関係」や「コミュニケーション」を学ぶ場としての役割が求められる 23.9%	5位	今よりも「人間関係」や「コミュニケーション」を学ぶ場としての役割が求められる 23.6%	5位	自己学習では学べない「高度な学習」の場としての役割が求められる 22.3%	5位	今よりも「精神的なサポート」としての役割が求められる 19.7%	5位	AIによる自己学習のみで完結し、今のような学校や先生はなくなる 26.0%
6位	今よりも「精神的なサポート」としての役割が求められる 16.4%	6位	自己学習では学べない「高度な学習」の場としての役割が求められる 21.2%	6位	自己学習では学べない「高度な学習」の場としての役割が求められる 22.3%	6位	今よりも生徒の「学ぶ意欲」を高める役割が求められる 22.2%	6位	AIによる自己学習のみで完結し、今のような学校や先生はなくなる 19.1%	6位	今よりも「子どもの個性」に合わせた学びの場としての役割が求められる 24.3%
7位	自己学習では学べない「高度な学習」の場としての役割が求められる 13.3%	7位	今よりも「子どもの個性」に合わせた学びの場としての役割が求められる 21.0%	7位	今よりも「子どもの個性」に合わせた学びの場としての役割が求められる 22.0%	7位	AIによる自己学習が中心となり週1回登校等の補助的な役割を担うことになる 21.0%	7位	AIによる自己学習が中心となり週1回登校等の補助的な役割を担うことになる 18.8%	7位	今よりも生徒の「学ぶ意欲」を高める役割が求められる 22.3%
8位	AIによる自己学習のみで完結し、今のような学校や先生はなくなる 8.6%	8位	今よりも生徒の「学ぶ意欲」を高める役割が求められる 20.1%	8位	今よりも「精神的なサポート」としての役割が求められる 20.3%	8位	AIによる自己学習のみで完結し、今のような学校や先生はなくなる 20.9%	8位	今よりも生徒の「学ぶ意欲」を高める役割が求められる 16.6%	8位	今よりも「精神的なサポート」としての役割が求められる 21.5%
9位	AIによる自己学習が中心となり週1回登校等の補助的な役割を担うことになる 8.2%	9位	今よりも「精神的なサポート」としての役割が求められる 16.9%	9位	今よりも生徒の「学ぶ意欲」を高める役割が求められる 18.7%	9位	生成AIの使い方・ルールを教える役割が求められる 19.0%	9位	自己学習では学べない「高度な学習」の場としての役割が求められる 16.6%	9位	今よりも「人間関係」や「コミュニケーション」を学ぶ場としての役割が求められる 20.2%
	わからない 20.1%	わからない 6.2%	わからない 4.6%	わからない 2.5%	わからない 3.8%	わからない 2.3%					